

令和6年度 京都府立大学 一般選抜試験（後期日程）
「小論文」（公共政策学部）

○出題意図・配点

一

問一 [40点]

問一では問題文を正しく理解し、澁谷智子氏が指摘する「かつての子どもたち」と現在のヤングケアラーの違いについて、本文中で使用されている用語で説明できるかを求めており、受験生の読解力と記述力を問うている。

本文は「第1章 子どもが家族の世話をすること」ということ」から抜粋している。「かつての子どもたち」は家族の世話をすることが想定されていたが、高度経済成長期に形成された日本の平均的家族モデルとしては母親が育児や家事や介護を担うことが前提とされ、子どもは将来に向けて勉強をすることが想定されていることを澁谷氏は指摘している。現在のヤングケアラーはその想定から外れ、同世代と同じような機会や経験を得られない状態といえる。これらの点を記述できているかがポイントである。

問二 [80点]

問二では本文の内容をもとにして、受験生の課題発見力、情報収集力、記述力、想像力、思考力を問うた。

本学部の教育理念には、「生涯にわたる人間発達を多様に実現しうる社会（福祉社会）を、個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くため…」の人材育成が掲げられており、アドミッションポリシーも同様である。そのため、受験生には日ごろから日本社会で発生している社会問題やその解決策に目を向けられているのかが問われている。

ヤングケアラーの具体的な支援については、ミクロレベルからマクロレベルまで多様な方法が考えられるし、それに関わる社会資源もまた多様である。具体的な事例を挙げて、適切な支援方法を示すことができているかが評価のポイントとなる。また、著者はヤングケアラーのプラスの影響についても言及しているので、そのことを活かす視点も欲しい。

二

[130点]

個々の図表の意味するところ、及び複数の図表から読み取れる傾向を正確に読み取り、その理解に基づいて、自分の考えを展開できる論理的な思考力を問うている。

具体的には、年齢、性別、就業状況による、新型コロナウイルス感染症への政府の対応に対する意識の違いを正しく読み取り、その傾向をまとめることができるか。

とくに高齢層と若年層での意識の違いや、仕事に影響が出ている性別、年齢層で2022年度の政府対応への評価が低くなっている点を的確に読み取れているかがポイントとなる。そして、こうした意識の違いの理解に基づいて、適切な対策を論理的

に考えることができるかを評価する。

三

問一 [30点]

問題文を正しく理解し、著者の主張を正確にくみ取ることがを求めており、読解力と記述力を問うている。

人口減少と高齢化により、経済規模の縮小を通じて都市の税収が減少する一方、福祉サービスのための支出や高度成長時代に投下された社会資本の更新に経費が嵩むため、都市経営は財政支出の対象を厳しく選択する必要性が生じることが書かれていることがポイントである。

問二 [30点]

概念を正しく理解し、因果関係を正しく掴むことを求めており、読解力と論理的思考力を問うている。

「拡張された資本」とは、私的資本が成長するために財政によって公的に投資される社会的資本であり、その投資によって私的資本が成長することができれば都市経済も成長することとなり、さらにそれが都市税収の増大になって帰ってくるため、より一層「拡張された資本」への投資がやりやすくなるといった好循環を形成することが期待できるというような主旨が書かれていることがポイントである。

問三 [90点]

問題文を正しく理解し、著者の主張を正確にくみ取るとともに、それを踏まえて、自分の見解を展開することを求めており、読解力、想像力、思考力を総合的に問うている。

二十世紀型産業政策では、物質生産が産業の中核をなしている経済において、私的資本の成長を促す道路・港湾等の物的な社会資本(インフラ)への公共投資が主要な手段であったが、二十一世紀型の産業政策では、産業のサービス化の進展を受けて、人間そのものの能力を伸ばすことが必要であり、そのための人的資本投資と、人々の互恵的な協力関係や信頼関係を築くための社会関係資本への投資がより重要になるため、そういう分野での公共投資が中心になることが、両世紀の比較を通じて書かれていること、さらに、著者の見解を踏まえて、都市経済の発展のために何が重要だと考えるかを論理的・具体的に記述的できているかが、ポイントとなる。